

令和元年度 FD カンファレンス概要

テーマ：「アクティブ・ラーニング」

双方向的な授業をデザインし、学生が主体的に参加するしかけをつくることは、教育の質保証にとって不可欠な作業です。今回の FD カンファレンスでは、アクティブ・ラーニングを成立させる仕組みを体験し、仲間と学び合う楽しさを皆で体験したいと思います。

【プログラム(A)：ICT 特集】

学習者が、アクティブに学ぶことが求められています。教育の質保証にとっても、重要なポイントの一つになっています。とはいえ、大学の資源も教員の時間も有限です。その難題を解決する一つの方策として、FD カンファレンスではこの間、ICT（情報通信技術）を活用することで学習者をアクティブにして教育効果を上げつつも、教員の時間や労力を有効に利用する方法を紹介してきました。本年も引き続き、学生の主体的・対話的で深い学びを促進する一つの方法として、ICT や様々なメディアを活用することで学生をアクティブにする学修環境を、プログラム(A)「ICT 特集」として紹介します。奮ってご参加ください。以下のプログラムに従って、研修を行います。スマートフォンをお持ちいただくと、その一端をご経験いただけますので、ぜひご持参ください。

A1-WS：主体的な学びを促す学修環境ーラーニングコモンズの効用（遠海友紀）

東北学院大学で、精力的に取り組まれているラーニングコモンズの事例紹介と、学習への様々な効用について、実践例から学びます。

A2-WS：eALPS 入門編からの第一歩（e-Learning センター）

主に新任教職員を対象として4月に実施した eALPS 研修基礎編から、その後実践を経た皆さんのフォローアップ、経験交流により、さらに効果的な eALPS の活用を目指します。

A3-WS：学習者をアクティブにする ICT 活用事例（矢部正之）

学習者をアクティブにする方法として、多くの場面で ICT が用いられます。その手法を概観するとともに、具体的な事例で学びます。特に、講義形式、大規模クラスでスマートフォンを利用した応答システムに焦点を当て、その利用方法と効果について、学びます。（協力：e-Learning センター）

【プログラム(B)：学びを成立させるために、学生を知る】

B1-WS：調査からみる信州大学のアクティブ・ラーニングの現状（李敏）

「アクティブ・ラーニング」の導入は、現在の大学教育改革の中核を占める重要な課題の一つと言えます。いわゆる「アクティブ・ラーニング」とは、学生が能動的に学修に参加する学習法のことです。このような学習法は、信州大学においてどの程度実施されているのでしょうか。また、アクティブ・ラーニングはどのような効果があるのでしょうか。本セッションでは、「大学生調査」をはじめとする各種学内調査の結果に基づき、信大のアクティブ・ラーニングの現状をみたく、学生が主体的に学ぶ方策について参加者とご一緒に考えていきます。

B2-WS：学生との接し方（田口多恵）

近頃の学生はよくわからない？！と感じた経験も少なくないのではないのでしょうか。多様化する学生像をどう理解したらよいのでしょうか。本テーマの「学生との接し方」如何によって、教員ー学生間でうまれる「何か」が違います。教員が見ている学生と、実際に目の前にいる学生、両者の相互作用からうまれる何かがあります。よく分からない（心の？）世界のものを少しでも分かるように、日頃の体験を交えながら学生への理解を深めたいと思います。

B3-WS：授業をデザインする（加藤鉦三）

「教育の質保証」が当たり前に求められています。しかし高尚な概念を操る必要はありません。「授業のあちらこ

さらに学生が超えるべき小さな山を配置しておき、学生が努力してそれを超えていき、教員はそれを成績評価の手段とする」というような形を作ることができれば、「教育の質保証」を個人レベルで達成できていることになります。このような授業では、学生の授業参加が確保され、その結果、教員と学生の両方の達成感が高くなることでしょう。このセッションでは、ご自分の授業でこのようなデザインを取り入れるとしたらどういうシラバスになるのかを一緒に考える機会にしたいと思います。

【全体プログラム】

ALL-WS1：「ようこそ&アイスブレイキング」（平野吉直）

開会にあたり、身体を動かしてリラックスし、互いを知ること、研修に楽しく参加していただく準備運動をします。

ALL-WS2：「研修の目的を設定する」（加藤善子）

二日間の研修を始めるにあたり、それぞれの目標を設定していきます。教員同士が興味関心を共有することも目的にしています。

ALL-L：「主体的な学びを促す授業デザイン」（遠海友紀）

インストラクショナル・デザイン（ID）を基盤に、アクティブ・ラーニングを促す授業作りについて、事例も含めて学びます。（協力：森下孟（教育学部）、e-Learning センター）

ALL-WS3：まとめとアンケート（加藤善子）

二日間の研修で、各先生方にとってどのような成果があったかを振り返ります。評価を行った後、解散です。

☆「プログラム A」と「プログラム B」が同時進行する「カンファレンス」形式（分科会形式）で開催します。参加者はメニューを選択できますので、様々な教職員と交流をしながら、それぞれのプログラムの中から各自の興味や必要に応じて参加することができます。対象は信州大学の全教職員および県内高等教育機関の教職員です。異分野ならびにアプローチ・手法の異なる教育に関する交流を通して新たな視点を得ることができるでしょう。

☆4月の新任教員研修のフォローアップ研修として実施します。本学で教育にあたられる上で有用な情報等を得られる機会であり、同じ学部・他学部の先生方と交流を深め、互いに学び合う良い機会でもありますので、2019年度職員研修対象者のみなさまは原則としてご参加ください。